

## 開会挨拶

### (公財)日本生態系協会 理事 八千草薫



皆様こんにちは。公益財団法人日本生態系協会の理事をしております八千草薫でございます。開会にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

本日は、『国際シンポジウム 地方創生に求められるもの 地域と世界を結ぶ』を開催いたしましたところ、このようにたくさんの皆様にお集まりいただき、まことにありがとうございました。ご多忙のなか、また遠路より、足をお運びいただき、関係者一同、心より感謝を申し上げます。また、開催に際しましては、内閣府、環境省、国土交通省などの政府省庁をはじめ、様々な機関・団体様よりご後援、ご協力を賜りましたことを、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

自然を大切に思われる皆様と同じ思いの私ですが、私は子どもの頃体が弱くて、小学校2年生のときに、大阪から自然の多い神戸の六甲に転校いたしました。学校は当時として珍しい近代的な学校でしたが、小さな山を背にしている、その山をしばらく登っていくと、少し開けた木立の中に机と椅子だけがある空間がありました。いわゆる林間学校ですね。青い空と緑一杯の木立の中で勉強しながら、鳥や昆虫や、いろいろな生きものと一緒に時間を過ごしました。たまにはヘビが出て来たりもしました。様々な生きものという環境は、子どもにとっても最高に心地よい空間でした。こうした子ども時代は、今もずっと私の中で強い影響を与えているような気がいたします。自然と一緒に生きること

の大切さを痛感します。

今日は、自然を守り、生きものと共存することで、地域の活性化に成功している自治体の皆様のお話がたくさんうかがえるということで、私も大変楽しみにしているところでございます。本日の地方創生シンポジウムを通じて、少しでも日本の地方を元気にするお手伝いができることを願いつつ、簡単ではございますが、開会の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

## 来賓挨拶

環境省自然環境局長  
奥主喜美氏



ただ今ご紹介いただきました、環境省自然環境局長の奥主でございます。本日は日本生態系協会主催のもと、「国際シンポジウム 地方創生に求められるもの 地域と世界を結ぶ」が盛大に開催されますことをお慶び申し上げます。また、このような場にお招きいただき、ご挨拶の機会をいただきましたことに心から感謝申し上げます。

さて、本シンポジウムの趣旨にございますが、私たちの暮らしは、森里川海の豊かな自然に支えられています。自然の恵みが私たちの暮らしを支えていることを都市の人々を含む、国民全体に実感していただき、森里川海を豊かに保ち、その恵みを支える社会づくりを目指していくことが必要でございます。本日は報告がある、韓国順天市や日本各地の地方自治体の取り組みは、その実現に向けた先進的な取り組みであり、まさに今後の地方創生のあり方を考える上でも大いに参考になるものであると考えております。

これまで環境省では、トキやタンチョウ、コウノリ等がすめる豊かな生息環境の保全を持続可能な地域づくりにつなぐ取り組みや、生物多様性の保全とその利活用に取り組む自治体のネットワーク化などを支援してまいりました。こういった取り組みをさらに進めるため、昨年12月より「つなげよう、支えよう、森里川海プロジェクト」を開始しています。先月からは、全国約50カ所での「リレーフォーラム」を開催しており、全国の多くの皆様のご意見を

いただきながら、地方創生にも資する具体的な取り組みを展開していきたいと考えております。

最後になりますが、このシンポジウムを通じ自然と共存する持続可能な地域づくりの取り組みが地方創生の原動力となり、さらに全国に広がっていくことを祈念し、私からのご挨拶とさせていただきます。

## 来賓挨拶

### 自由民主党地方創生実行統合本部 本部長 鳩山邦夫氏



こんにちは。鳩山邦夫でございます。

私は、池谷会長を心から尊敬いたしております。長いおつきあいをしております。池谷会長からいろいろ教えていただいたことを基に、環境の勉強も随分させてもらったつもりでございます。そういった意味で、今日はこのシンポジウム、有意義な一日になることを心から願っております。

実は、池谷会長と初めてお会いしたときにある質問をしたのです。私はチョウの研究者で、論文も書いています。夜のチョウじゃありません、昼間のチョウチョです。長野県の信濃追分周辺で、今から30年くらい前にチョウの宝庫を見つけました。これはすごいと思いました。子どもの頃から別荘暮らしを随分してきたけれど、こんなに種類のチョウがひとつの林道にいるというのはびっくりだと思って、10年近く楽しんでいました。ところが、ある時その林道が舗装された。翌年行ったら、チョウが10分の1もいない、20分の1もいないのです。そこで、「これは生態系的にみるとどうということなのですか」と、初対面の池谷会長に聞きました。

すると、「これがまさに開発による生態系ピラミッドへの影響なのです」と池谷会長は言いました。つまり、道路が舗装して壊される前は、底辺が大きいから生態系ピラミッドも大きかった。しかし、道路を舗装してしまえば底辺が縮小するので、生態系ピラミッドも小さくなってしまいます。だから、チョウがいなくなるのは当然なのだということでした。これから

は、舗装にしても、透水性舗装など生態系が生き残れるような技術を開発しなくてはだめですねというようなお話をしました。

その後もいろいろなことを教えていただきました。環境ホルモンについての勉強も随分やりました。最終的には自然生態系と人間の活動、いわゆる産業活動は、ひとつのものの領地の奪い合いになるのかもしれない。だから経済と環境の調和が必要だと環境省や環境大臣は平気で言いますが、これが実際は大変難しい。しかし、これができれば、我が国の社会は永続できる。

でも、ただ当たり前に行ったのでは永続性を欠くということになります。たとえば太陽光発電。これはある意味では、エネルギー的にも環境的にも素晴らしいものだと思いますが、我々チョウを追い求める者としては、一概にそうとは言えない側面もあります。ここはよい環境だったという場所に、大規模な太陽光発電施設ができる。最近これは環境破壊の一因にもなり得ると思うことがあります。

カール・マルクスという人は評価していないし、資本論もほとんど読んだことがないのですが、ただマルクスさんが言ったことで正しいと思うことは、「経済が下部構造で、経済の上に政治とか法律とか文化とかいうものが上部構造としてある」ということです。これだけは正しいのだらうなと思っています。けれども考えてみると、経済の下にはさらに下部構造、土台がある。それが自然生態系という

ものではないかと思っています。

私は自民党の地方創生実行統合本部の部長に10日前になったばかりですが、地方創生というものも、まさにその境目にあるような気がします。自然環境と経済、あるいは経済だけではなく、人口や雇用の問題もありますが、地方創生はその境目にあるような気がします。自然生態系を無視したり、破壊したりするような地方創生というものは、大都会の真ん中ならあり得るかもしれないけれど、一般的にはあり得ないし、日本の将来に暗い影を投げかけるものになるだろうと思います。

したがって、私はこれをずっと言い続けていますが、あくまでも生態系を重視した、自然との共生というものを軸として地方創生をやっていきたい。そういう気持ちで私はこれから仕事をしていこうと思っています。皆様方のお知恵を是非とも拝借できますようお願いしながら、今後、自然環境、生態系というキーワードを軸にして、日本の国が発展することを心から期待してご挨拶いたします。ありがとうございました。

## 来賓挨拶

### 国土交通省水管理・国土保全局長 金尾健司氏



皆さん、こんにちは。国土交通省水管理・国土保全局長の金尾でございます。本日は国際シンポジウムの開催、まことにおめでとうございます。ご参加の皆様には、日頃より国土交通行政、とりわけ河川行政に格別のご理解、ご協力をたまわっておりますことを、この場をお借りしまして厚くお礼を申し上げたいと思います。

さて、本日のシンポジウムでは、大型の水鳥類のトキ、コウノトリ、ハクチョウ、ガン、ツルに関するご発表があるとうかがっております。トキやコウノトリは、古来から日本に生息していたものの、一時は野生絶滅した鳥であります。それが今、ここにお集まりの皆様のおかげによりまして、再び日本の国土に羽ばたいており、さらには、今やひとつのブランドとなり、それが結果として観光資源にもなり、地域の元気づくりにも役立っているとうかがっております。

豊かな自然環境を育む場でもある河川は、このような水鳥が生息するための健全な生態系ネットワークを形成する上で、重要な役割を担っていると考えております。平成9年には、河川法に河川環境の整備と保全が、法の目的として位置付けられてから、河川整備のあらゆる機会を通じて多自然川づくりに取り組むこととして、自然環境や地域の歴史文化などから見て、より魅力のある川へと整備していくことを基本として、取り組んでまいりました。

生態系ネットワークの形成に関しましては、本日も発表いただきます。島根県出雲市の斐伊川、兵庫県豊岡市の円山川、栃木県小山市の渡良瀬遊水地について、当省も様々なお手伝いをさせていただいております。地域の水辺環境の向上が、地域の宝を磨くことにつながり、地域の活性化にも役立ちますように、是非、国土交通省としても努めてまいりたいと考えております。

本日の講演などを通して、河川における自然環境の保全・再生に関する皆様のご理解が深まるとともに、本日のシンポジウムが実り多いものとなりますことを心から祈念をいたしまして、挨拶といたします。どうもありがとうございました。

